

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100582		
法人名	有限会社ナオエ		
事業所名	グループホームしのぶ園		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字袋326-20		
自己評価作成日	平成28年5月9日	評価結果市町村受理日	平成28年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少し歩けば、佐賀城のお堀や市街地にも近い、静かな住宅街。近くのバイパス沿いには、スーパー、ディスカウントストア、薬局、飲食店、コーヒーショップが立ち並び、買い物、軽食、スイーツ等と楽しめる環境です。昨年、施設を新しく建替え、落ち着いた空間づくりとしました。パナホーム施工で耐震強度も優れております。入浴の為の設備も、電動リフト付きシャワーキャリーを導入し、今まで浴槽内に入れなかった利用者の入浴の楽しさを増やしています。勤続年数の長いスタッフが多く、利用者との信頼関係も深い。24時間往診して下さるドクター、訪問看護ステーションとの連携で、御家族の安心を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街に位置している。民家改修型から、耐震や防災を考えH27年に新築されており、災害時の食糧備蓄も備えられている。室内は明るく清潔で、最新の入浴設備など取り入れるなど、入居者の安全性や職員の働きやすい環境にも配慮されている。また、「笑顔で、ゆっくり、楽しく」の理念に基づいた支援に努められ、和やかな雰囲気作りや、近隣への散歩や外食、ドライブ、地域住民との交流なども日頃より心掛けられている。往診や訪問看護、病院受診支援など、医療機関との連携も取れており、終末期の看取りの支援もされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「笑顔・ゆったり・楽しく」家庭のように過ごして頂く介護に努めている。職員には、ミーティングや申し送りの際に唱和してもらっている。玄関先に掲示し、誰もが目に付くようにしている。	毎朝の引継ぎ時、ミーティング時など職員全員で唱和を行い、内容理解に努め、実践に繋げている。管理者は職員の入職時等、理念について時間をかけ、丁寧に伝達している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り、清掃活動に参加させてもらっている。近隣住民には、散歩や顔を合わせた時には、挨拶を交わすようにしている。本庄消防団開催の定期防災セミナーには必ず参加している。	散歩時の挨拶等、日頃より地域との交流に努めている。また、近くの幼稚園の行事や馬頭観音祭りなどへ参加したり、事業所の開設以来、地域の清掃活動なども続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には民生委員、自治会長、近隣住民の方々、特に高齢の方々、高齢のご家族のいらっしゃる方に参加して頂き、施設での様子や、過ごし方を理解してもらっている。在宅介護の相談等にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容として、認知症利用者のケースを取り上げ意見交換を行っている。又、災害時の非難に関しても意見交換をし、避難口、避難経路の確認を行ってもらっている。	議題や内容予定は写真を添えるなどし、わかりやすく整理されている。しかし、話し合いの内容や意見など、議事内容の記録が取られていない。	議事録を整備し、関係者、職員への会議内容など周知し、更なるサービス内容改善につなげていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐賀市主催の集団指導に参加。市町村の担当者(社会福祉協議会・佐賀市福祉事務所)に相談アドバイスを受けている。また、近日中に消防署中央出張所立ち合いの、避難訓練も予定している。	日頃より運営に関することや、運営推進会議で出た質問など、市の相談窓口、広域連合、社会福祉協議会等、関係機関に日頃より相談指導を仰いでいる。市の福祉課からの相談もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有する為、話し合いを行っている。	研修会等に参加したり、ホームのマニュアル作成を行い、身体拘束に関しての知識を深めている。玄関の出入り時の転倒事故や無断外出を考慮し、常時玄関の施錠がなされている。	マニュアルの見直しや、職員の見守り、連携の工夫など、安全にも配慮して施錠に頼らない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に、スタッフが参加している。ミーティング時の課題にも上げ、学習を重ねている。言葉の暴力についても合わせて課題としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員が外部の研修に参加している。研修会で学んだことについて、職員へ発表し共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず、需要事項説明書、その他事項の説明を行っている。説明に対する質問にはその都度お答えし、納得された上で署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置、対応している。御家族の面会時、ケアプランの説明時には、意見を頂いている。その際には、何でも話して頂けるよう、御家族の方々の近況にも耳を傾けている。	運営推進会議での聞き取りや、家族面会時、入居者の日頃の状況報告を行い、本人・家族の意見や意向の聞き取りに努めている。実践可能であれば、運営に取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で管理者は、ミーティング、送送り時に限らず、常に意見の交換を行い、早期解決、改善に努めている。	日頃より、管理者は職員の意見を聞き入れる姿勢で臨んでいる。日頃の会話での聞き取り、会議等で出た意見や提案は、主任が内容をまとめ、管理者に報告し、業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営運営会議にて、個人の勤務形態を把握している。外部研修への参加も積極的に促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、外部研修を受講できるように取り組んでいる。様々な資格取得に努力している職員もいる。他の職員へ情報共有の為に発表の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との定期勉強会の呼びかけには、参加し交流を行っている。他事業所の見学も行い、お互いを高める努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人にお会いして、これまでの人生、好き嫌い、御家族の意向を確認している。環境に慣れられるまでは、細かい言葉掛け心配りを行い、安心して頂けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に至るまでの背景、生活歴、御家族の願い、悩み等を確認、本人の要望にも耳を傾け、安心が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族が見学に来られた際になにを必要としているのか、どういう支援が必要かを確認、見極めるようにしている。また、その後ケアマネ、職員間で意見交換を行い、ケアの実践に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、共に生活するなかでの気づきを大切にしながら、本人の意思に沿うケアに努めている。入居者の長い人生経験から教えていただく事も多く、より良い形で支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭であるグループホームに、家族が集うのは当然と考え、行事の時は勿論、普段から頻繁に面会に来て頂き、意見要望も遠慮なく伝えてもらえるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人の訪問も積極的に呼びかけ、歓迎している。	友人・知人の訪問は自由に受け入れ、面会時はプライバシー保護のため自室に案内している。日頃より入居者を散歩等に連れ出したり、昔からの馴染みの場所へのドライブなどを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内では、座る位置等を考慮し、入居者が誰とでも話を出来る環境づくりに努めている。また、職員が話の仲介役に参加し、話の輪が広がる繋がるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩され、入院、退院された方、また他施設へ転所された方の面会にお連れしたり、御家族の方から、その後の様子を伺っている。相談にも対応して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし、好み、生活習慣、希望を確認するようにしている。御家族の意向を取り組みながら、日常の会話、生活の様子を確認し、希望に添えるよう努めている。	日頃の関わりの中で、本人・家族の意向の聞き取りを心掛けている。また、入居時にこれまでの生活歴、本人の思い等の情報収集を行い、職員間で共有し、ホームでの生活が本人・家族の意向希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を、本人、御家族、ケアマネに確認して、今まで暮らし方やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活のリズムや、過ごし方を大切に、本人のやりたい事、出来ることを確認する。また、不安に感じていることなども合わせて、不安を取り除くよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に、記録を残す。御家族の意見と日常生活状況を踏まえたモニタリングを行っている。ミーティング時に職員の意見を反映し、ケアプランを見直す機会を設けている。	ケアプランは6ヶ月毎に見直し・作成され、職員の意見を含めたモニタリングや経過記録もある。担当者会議も開催しており、家族にプラン内容の説明を行い、署名・捺印もしている。不足書類もみられる。	プラン更新時の評価票の記録が整備されていない。現状に即したプラン作成のためにも、記録整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌や、食事量、飲水量、排泄等の記録を個別に記録。送りノートにも、本人の特変事項、職員の気づきを記録し、全職員が目を通し共有している。個別の記録はケアプランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、常に「その人らしさ」を大切に活かすよう支援している。誕生会、ボランティアの来園時に、御家族の出席をお願いしている。毎月、それぞれのご家族へお手紙、園便りで状況を御伝えしている。御家族がいらっしゃらない利用者は、希望を汲み取り、個別に買い物等お連れしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	静かな住宅街に位置しているながら、近隣にはスーパー、飲食店等がある為、買い物や、外食に出掛けている。近隣保育園の発表会、運動会の行事にも参加し楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を大切にしている。了解を得た入居者に至っては、園の協力医療機関に変更頂く。またその際に協力医療機関の対応(定期、急変時、夜間の往診)を説明し、安心を得ている。必要に応じて病院受診には、スタッフ付き添いを行っている。	入居時に説明を受け、概ね協力医療機関での往診による医療受診を利用している。検査のための受診や他科への受診は、原則、家族対応だが、必要に応じてホームによる付き添い支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと連携、提携し1週間に1度日常健康管理を行う為に、訪問して頂いている。利用者の異常を感じた場合は、小まめに主治医、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ情報提供を行っている。不明な点は、いつでも連絡して頂くようにも伝えている。しばしば面会をして状態観察すると共に、病院サイドとの情報交換も行う。退院時は、事前に病院側と今後の必要なケアについて話を伺い、退院後の生活がスムーズに行えるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居された際に御家族の方へ説明している。本人の意向、職員、主治医、看護師と話し合い、最後まで、その人らしさを大切にすることを指針に盛り込んでいる。	入居時、ホームの対応・指針を文章により説明し、同意書を取っている。重度化した場合など、医療関係者を含め状況説明を行い。情報共有を図り、本人・家族の意向を尊重した支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成している。救命救急講習を受講している者もいる。痰吸引の講習修了者もあり、吸引機の準備もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。定期的に夜間の災害を想定した訓練を実施している。避難場所までの安全な経路、時間を把握している。災害断水時の飲料水、非常食、オムツ等、避難時の為のレインコートも用意している。	年2回消防署の立会いの下、避難訓練を行っている。また、ホーム独自で月1回、夜間想定での避難訓練を実施している。災害に備えて備蓄や近隣住民と避難時の協力依頼をしているが十分とは言えない。	近隣住民の訓練への参加や、具体的な役割分担をすることで、より入居者の安全な避難誘導が行えるようになることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳の維持を徹底し、丁寧な言葉遣いの接し方をしている。個人情報の取り扱いには十分な注意を払っており、外部への持ち出しは例外を除き、厳禁としている。	排泄時や入浴時等、音や会話の内容が聞こえないようにし、更衣時も人目に触れない配慮をしている。個人情報も他者の目に触れないところで保管し、外部への持ち出しも、原則禁止するなど情報の管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者1人1人に合わせた言葉かけを行っている。言葉での表現が困難であっても、日常生活の中で注意深い観察を行い、本人の意思を汲み取るようにしている。自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく過ごせるように、個人の生活リズムに合わせている。起床時間や、食事の時間、1日のペースを大事にしてもらう支援を行っている。何事に対しても、無理強い、強要はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容院の来園をお願いしている。(3ヵ月に2度)園での、お出掛けや、外食の際は、希望される利用者にお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のお膳は、もちろん、同じ利用者のお膳も下膳して頂いている。買い物にも同行してもらい、好きなメニュー伺って取り入れている。誕生日や、イベント時のお菓子作りには、簡単なトッピングに協力してもらっている。	買い物等、入居者ができることを一緒に手伝ってもらっている。献立は、個々の好みを取り入れ、彩りよく美味しく作っている。誕生会などでは特別なメニューを提供したり、外食したりするなど、楽しむことのできる支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を用いて、把握をしている。食事以外の水分補給には、水分の吸収がよいスポーツドリンクや、カルシウム摂取の意味を含め、牛乳にするなど工夫をしている。体調や、身体状況を考え、食事の形態も、ミキサー食や、刻み食など1柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨きをしている。 定期的に協力歯科医院の受診、口腔内のチェックをお願いし、必要な場合の治療もお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、1人1人の排泄パターンを考察している。排泄の訴えがある方は、その都度トイレに誘導している。その方々以外の人も、定時にトイレへ促すよう言葉掛けを行い誘導している。夜間も出来るかぎり、オムツは使用せずポータブルトイレを設置している。	排泄チェック表から排泄パターンの把握をするようにしている。また、各入居者に応じたパットを使用し、できる限りトイレでの排泄を促すことで、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を時間で必ず飲んで頂くように促している。主治医へ相談し、便秘予防の薬を処方して頂いている。また、服用時の内容にも細かい決まりを作り対応している。必要に応じて、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「午後はゆっくりしたい。」という、利用者の希望で入浴は、午前中に行っている。また、曜日に限らず、利用者の清潔を保持する為に必要な時は、その都度入浴を行っている。シャワーキャリーを導入し、安全に入浴出来るよう支援している。	週3回入浴をしている他、状況に応じて、対応している。介護度の高い方もいるが機械浴を導入することで安全な入浴と、職員負担の軽減につながっている。入浴中は言葉掛けを多くする等、楽しい時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中にレクリエーションを行い、午後は散歩、買い物、なるべく日中の活動の時間を設けている。午睡の希望もある為、自室でしばらく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬の説明書きを綴っている。薬の管理も、1日の服薬分、服薬後の空袋も保管し誤薬防止に繋げている。薬局さんにも全体の薬の管理をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付け、食事用のエプロンの配布、植木の水やり、洗濯物をたたんでもらったり、利用者の出来る範囲の役割をはたしてもらっている。カラオケ、カルタ、トランプが好きでいつも楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、必ず散歩にお連れしている。季節ごとの桜、鯉のぼり、向日葵、彼岸花等、また近隣への外食、ショッピングモールへの買い物と、月毎に行事を予定し、外出している。近隣の飲食店の店員さんも快く、受け入れてくださっている。	天候に応じて近隣への散歩を行っている。年間を通じて行事を企画し、介護タクシーを利用してドライブなど行っている。歩いて行ける、近所の飲食店では、本人の状態に合わせた食事の提供があり、外も楽しむことができる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい利用者の方が多いため、買い物へ行った際など、購入したい物がある場合は、その場で職員がお金を渡し、購入して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が望まれる時には、連絡をして良いか御家族に確認している。電話を希望されるときは、職員が電話し、御家族へ繋がれば本人へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置き、緑の多い場所になっている。床や、天井、テーブルも落ち着いた色味、木目を配色し和やかに過ごせるようにしている。オープンキッチンにし、食事の匂いが感じられる。	ホームは昨年11月新築され、採光も柔らかく、空調設備も整っている。居間には観葉植物も配置し、音楽なども流され、隣接する台所からは調理の様子など伺える。生活感のある、居心地の良い、空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内、窓際にソファを置き、テーブルから少し離れた、一人の空間を意識している。また、仲の良い利用者同士話ができるようテーブルには椅子を置いたり、車椅子が入れるスペースも考え、わざと椅子を外したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒、家具の持込みも出来る事、御家族へ伝えている。また仏壇を持込まれた方もおられる。必要に応じて希望があれば対応できるように、テレビの配線も全室用意している。	自室の家具の持ち込みは自由で、好みの写真を貼ったり、仏壇なども置くことができる。各居室にエアコンやテレビの配線があり、自由に使えるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前には、ネームプレートを用意している。部屋名、名前を記入し目印にしている。トイレドアに貼紙をして解りやすくしている。居室入口、居室内に沢山の手すりを配置し、安全に移動できるようにしている。黒板に今日の日付、予定や、受診の日程を記入している。本人も確認されている。手摺の色は、壁と区別がしやすいように濃い色にしている。		